

幼子とともに

2025 年度 6月号

はじめに

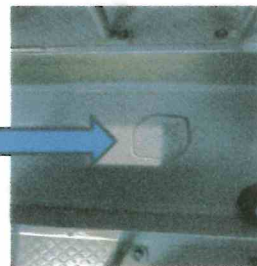
真夏日のような日が続くと思いきや、半そででは肌寒い日もあるなど、体調管理が難しい日々が続いています。どうぞ、お子様を始め、保護者の皆さまの上に、神様の御守りがありますように、心よりお祈り申し上げます。6月は、子どもたちにとっても、教師や保護者の皆さまにおかれましても、心身ともに疲れが出て来る時期であると言えます。疲れが溜まりますと、心に余裕が生まれにくくなり、ついつい、イライラしたり、心が不安定になったりしやすいこともあるかもしれません。子育て、家事、仕事で日々忙しく過ごしておられる皆さまにはぜひ、休める時には、しっかりと休んでいただければと願っています。神様の平安を、心よりお祈り申し上げます。

その発想はなかったわぁ(^▽^)/

ある日、園長がバスに添乗していると、子どもたちが何か不思議なことを言い始めました。「園長！レモン食

べて！」「園長！あのレモン取って！！」「あそこにレモンがあるんだよ・・・」
レモンって何だ？米津か？はたまた、「ザ・テレビジョン」か？それとも、バスの窓からレモンの木でも見えたのかな？一体何の話？子どもたちは、一斉に、同じ方向に指をさして「レモンだよ」「ここにレモンがあるんだよ」と叫びます。ますます、迷宮入りです。みんなの指さす方を見てみると・・・レモンありました。

「確かに形がレモンだ・・・というかこれ何？」と心の中でつぶやきつつ、子どもたちの発想力の豊かさを垣間見たように感じました。大体の人は、「レモン」は黄色をイメージするでしょう。しかし、子どもたちは「色」だけではなく「形の全体像」から色々なことをイメージすることができるのですね。子どものもつ発想力やイメージ力、視野の豊かさには、時々、驚かされる次第です。こういう子どもたちの発想をそのまま受け止められる大人になりたいと思いました。



点から線の保育～導入から実体験へ～

ある日、「絵具工場」（正式名称を忘れました）からばら組さんにお手紙が届きました。その内容は、同封された申込書を送ると、絵具と筆が当たる、というものだったと記憶しています。子どもたちは、大喜びです。抽選が外れてしまうと大変ですから、すぐにポストまで届けに行きました。

そして、ポストに申込書を入れ、当たることを願って、みんなでお祈りをしました(笑)こういう所が、越谷幼稚園の子どもたちらしいなと感じました。

数日後、無事に、絵具が届き、子どもたちの製作活動の範囲が、広がっていきました。ちょうど、よいタイミングだったのは、同じ時期に行われた教会主催の「絵画展」です。勿論、子どもたちも絵画を鑑賞しました。「どうやってこんな色が出せるんだろうか？」「どうして、浮き出て見えるの？」「これは何の匂い？」など、様々な感想が、子どもたちから出てきました。

この一連の物語は、絵具工場からの手紙という導入から始まり、実際にポストに手紙を入れる経験、当たるか外れるかというドキドキ体験、筆を実際に使用する経験、プロの絵画を鑑賞する、という幾つもの実体験を生み出しました。結果的に、点々とした保育活動が、一つの線になりました。子どもたちの気持ちが、途切れることなく、維持できたのは、このように保育内容が一つの線となっていたからなのだと思います。一つ終



わったら、新しい次に行くではなく（マインドリセットではなく）、一つのことの延長線上に、次がある、その積み重ねこそが、子どもたちの成長の躍進にもつながるのだと思うのです。

絵画展風景⇒



わがままばかりじゃだめですか？

最近流行りの？「可愛いだけじゃだめですか？」のようなタイトルになってしまいましたが、最近、子どもの「わがまま」について考えさせられています。なぜ、子どもはわがまますを言うのでしょうか。

わたしには、二人の娘がいますが、時々、わがまますを言います。疲れている時に限って、無茶な要求をしたりします。子どもは賢いですから、要求をのまずにはいられない場面で、わがまますを言うこともあります。何で今なの？何でここなの？ってタイミングでわがまますを言います。ついつい、「ちょっと待って！」「後にして！」と言ってしまうこともありますが、言ったあとに少し後悔もします。

親も人間です。親だってわがまますが言いたいです。一人にしてほしいと思うこともあります。答えられない要求もあります。それでも、子どもは、親に対してはわがまますを言います。ある日、わがまますを言う我が子の目をまっすぐ見つめてみました。そこには、この心の狭い親を、それでも信頼し、この人なら何とかしてくれると信じる我が子の眼差しがありました。

「わがまます」とは「わたしのまます」という意味かどうかは知りませんが、そこには、親を信頼して、心を開く、ありのままの子がいました。信じてくれる子がいる。自分を必要としてくれる子がいる。そう思った時、子が、自分の存在意義を明らかにしてくれたようにも思ったのです。わがまますは信頼の証。親は子にとって必要な、欠けてはいけない存在なのです。

父（園長）「忙しくて余裕がなくてごめんね。何してほしかった？」

子「グミ買って来て！」

父（園長）「・・・はい」

園長 須賀 工

栄養士だより <手洗いが上手になりましょう>

幼稚園の生活に少しずつ慣れてきて、遊びが活発になってきている6月です。園庭で存分にどろんこ遊びを楽しんだ後にはしっかりと手洗いをして清潔に過ごしましょう。手には目に見える汚れだけでなく、目には見えない細菌も付着します。まず水で手をぬらし、泡立った石鹸で手の甲、指の間、指先、手、手首を丁寧に洗いましょう。

6月の、この雨の多い季節は、温度、湿度が共に上昇して、食中毒を引き起こす。カビやばい菌が活発に動くようになります。食中毒予防の基本は「手をしっかりと洗うこと」なのです。さらに食中毒予防の3大ポイントは、①菌を付けない 洗う！（洗剤で調理器具を念入りに洗う。特に肉や魚を切った後にも）②菌を増やさない 低温で保存する！（細菌の多くは高温多湿で増殖が活発になるけれど10℃以下で緩やかになる。また調理後時間経過とともに菌が増えるので早めに食べる）③菌をやっつける 加熱処理！（ほとんどの細菌やウイルスは加熱によって死滅するので加熱して食べる。）これらのことを心がけ、幼稚園での遊びや食事の時間を楽しんでほしいと思います。

いけだかすみ